

岩本ゼミナール機関誌

第8号

2003年度版

京都大学経済学部

岩本武和研究室

岩本ゼミナール機関誌

第8号

2003年度版

京都大学経済学部

岩本武和研究室

岩本ゼミ機関誌第8号（2003年度版）

目次

I はじめに	岩本武和	2
II ゼミ単位取得論文		
量的緩和政策の効果	荒戸寛樹	4
近年のベンチャーブームとベンチャーファイナンスを巡る動向についての考察		
	小畑庄平	13
失われた10年と今後の日本経済	杓脱誠	40
欧州市場統合による欧州自動車産業への影響	嵯峨優子	61
III ゼミ年間活動報告およびインゼミ提出論文		
2003年度ゼミ活動報告	松岡孝恭	76
インゼミ提出論文「日韓自由貿易協定について」		79
IV 先輩からのメッセージ		116
V 2003年度ゼミ決算報告	松永和範	122
VI OB・OGの方へ	杓脱誠	123
VII 編集後記	杓脱誠	124

OB・OGの方へ

◎寄付金のお願い

2003年度も多くの方からの寄付金を頂きありがとうございました。おかげさまで、今年度もつつがなくゼミ活動を終わることができ、無事機関誌を発行することが出来ました。ここに現役ゼミ生を代表して、お礼申し上げます。

2004年度も改めて寄付金を頂戴できれば幸いです。先輩方には一人一口7000円の寄付をお願いします。振込先は以下の口座です。

みずほ銀行 百万遍支店 普通預金

口座番号 476-2003967

京都大学経済学部岩本ゼミナール 岩本武和 宛

◎青竹会について

今年度は岩本ゼミの同窓会である青竹会開催の年です。例年通り、9月半ば頃に開催する予定ですが、詳しい日程は追ってご連絡いたします。皆様のご参加のほどよろしく願います。

◎ホームページについて

もうすでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、岩本ゼミナールのホームページ (<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Library/3251/>) があります。冒頭で岩本先生も紹介されていましたが、近々公式ページを作る予定ですので、ご活用下さい。また必要に応じて、連絡事項等を掲載していることもございますので、たまにチェックの程お願いします。

◎名簿について

ゼミ名簿に関してですが、住所・電話番号・勤務先等に関して変更点があれば出来る限り更新しておりますが、記載されている内容に変更点がある場合等は、次年度編集委員の10期生松岡 (T.Matsuoka@e01letusbetrue.mbox.media.kyoto-u.ac.jp) までご連絡下さい。

編集後記

今年も無事に機関誌を発行することが出来ました。本年度の機関誌はいかがでしたか？

ゼミ論は、学者の卵とベンチャービジネスを志向する者、一端のエコノミストを目指す者そして世界屈指の自動車会社に就職する者がそれぞれ執筆しました。執筆した内容はそれぞれバラバラですが、自分たちが将来飛び込んでゆく世界のことを思い描きながら、問題意識をもって取り組んでいる姿勢で共通しています。また今年度の2・3回生が中心のゼミでは、日本経済において非常に重要な問題である FTA をディベートのテーマにとりあげ、日韓自由貿易協定という具体的なテーマのもと論文を執筆し、ニュースや雑誌での内容よりもさらに掘り下げて議論を展開しています。

それにしても、ようやく、これで岩本ゼミの仕事ともお別れかと思うと、ほっとすると同時に卒業を実感し少々寂しくもあります。京大というところが居心地よかったせいもあるのですが、なによりも岩本ゼミを通じて楽しい時間を過ごす事が出来たことにつきます。

1回生の時、大学に入って最初の経済学部の授業でイントロダクションと称して「1ドル120円のときに円を売りドルを買い130円になったときにドルを売り円を買えば、君たちは利ざやを稼ぐことが出来る・・・、そしてそれで車を買ひ、コメを売り・・・これが経済学です。」という裁定取引の話をした岩本先生。その時の僕はアホさながら、「すっげーやん、これが経済学か。ちょっとオモロイかも。」と本気で感じました。肝心のミクロ経済学の講義は残念ながら、さっぱり忘れてしまいました（すみません・・・）、この話は新鮮でした。それをきっかけに経済というものに興味を持ち、ちょっとは勉強してみようかという気になり、ゼミ選択の時期に先生は朝日の夕刊3面記事に載っていましたが（笑）、はじめての経済学の授業が印象的なせいもあって、岩本ゼミに入りました。

岩本ゼミを通じて様々な方と出会うことができたことに感謝します。ゼミに入りたての時に出会った先輩方、私が大学卒業後の進路を考えると大いに参考になりました。もし岩本ゼミの先輩と出会っていなかったら自分は違う道を歩んでただろうな・・・と思うときがあります。そして、後輩のみなさん、出来ればもう少し同じ時間を過ごしたかったと思います。特に4月から3回生になる皆は優秀な方ばかりで、先輩として見ていて楽しみでした。君たちとは僕が大学を出てからも、何かと関わる機会が多いような気がします。そして、同期の皆、僕にゼミ長をさせてくれた事に感謝します。当初は知らぬ間に任命され、あまり乗り気ではありませんでしたが、やってみると結構面白かったです。ボンクラの僕なりに、大学時代ががんばることが出来たと自信をもって言える事の一つです。同期はあくが強い、変な人たちばかりでしたが（失礼！）、ともに3年間同じ時間を過ごすことが出来て楽しかったです。中年になっても会いましょう！そして、柴田さん、長い間見守ってくれてありがとうございました。僕がゼミ長の仕事をこなすことが出来たのは柴田さんのおかげです。最後に岩本先生、先生との出会いはこれまでの僕の人生にとって、もっとも大きなターニング・ポイントです。僕だけではなく、9期生みんなを代表して、先生と出会えたことに感謝します。

3年間、本当にありがとうございました。今年は青竹会開催の年です。みなさんとお会いできるのを楽しみにしています。

2004年3月10日 沓脱 誠

岩本ゼミナール機関誌 第8号
2003年度版

2003年3月25日発行
京都大学経済学部
岩本武和研究室

禁無断転載